

- 問(一) (1) 合致 (2) 勘案 (3) 眺 (4) 至高 (5) 顕著
- 問(二) 国家に属する人々の多様性を抑圧し同質化を進め、生活の安定化を図る政策。(三十五字)
- 問(三) 国民の生活を安定させ、人口や生産力といった国力の増加を国家の課題とする政治観。(三十九字)
- 問(四) 社会契約の主体となる群れがどのように区切られたのかという歴史的経緯や、区切られた群れを単一の国民として管理し国を運営する国家権力の重大性。(六十九字)
- 問(五) 集団の同質性を前提とし国家と国民双方が国力の向上を図る体制下においては、国民内部の異質な者や生産性に寄与しない者を排除することを当然としたという問題。(七十五字)

問(一) (1) 道理に合わない

(2) 義理堅く、実直に

(3) 思いがけず

問(二) 万年筆を使い続けたせいで、何度も奪われることになったから。(二十九字)

問(三) 遺品の中にかつて奪われた自分の万年筆を見つけたことで、それにまつわる向田邦子との思い出がよみがえり、彼女がこの世にいないという喪失感が一層かきたてられたから。(七十九字)

問(四) 自分が欲しいと思う物や話を人から自然に奪い、仕事へと鮮やかに活かしてしまう存在。(四十字)

問(五) 相手の抱える問題に対して余計な詮索をするのではなく、互いに自分自身の抱える問題と向き合って生きていこうというメッセージ。(六十字)

三

問(一) (1) Ⅱ どうかしてその妙薬の処方を知りたいとお思いな

り

(2) Ⅱ 怒りをこらえかねているその様子は

問(二) 一生涯に一枚しか書かない誓いの文であるが、この私めに薬のことを教えて下さりますのなら、書くことを承知します

問(三) 人の病気を救う薬の知識は独占すべきではなく、口で教えるのでなければ誓約を破ることにならず天罰を避けられると思っただから。(五十九字)

問(四) 起請文まで書かせて他人に教えることを厳禁したのに、一休がその約束をあつさり反故にしたから。(四十五字)

問(五) 起請文の文言を逆手に取って、自分の行動はその誓約に背いてはいないと言い逃れる言い訳。(四十二字)

四

問(一) (1) 臆病だと思われれることを恥じて

(2) 利益に引き寄せられて

問(二) 淵や谷を跳び越えた者には大金を与え、跳び越えなかった者には大金を与えない

問(三) (イ) 〓 そのきょうなるものはなおいまだあたわざるなり

(ウ) 〓 ゆえにいさめざるはなし

問(四) 勇気の有無ではなくその場の趨勢で跳んでいるだけだということ。(三十文字)

問(五) 「三代」では褒美や刑罰を与え、諫めやすい趨勢を作っていたが、「末世」では諫めない者を褒め、諫める者を罰して、諫めにくい趨勢を作っているから。(七十文字)